

やらないよりは、やったほうがいい。 大学院への挑戦は起業への第一歩。

永田 秀晶 (株式会社ハコジム)

会社概要

24時間365日オープン完全個室制フィットネスジム「ハコジム」を運営。広島市内に7店舗、福岡市に1店舗を展開し、メンバーはネット予約でどの店舗も利用可能。月会費は業界最安値を誇る。



代表取締役

永田 秀晶 (42才)
HIDEAKI NAGATA

- 2016年／県立広島大学大学院経営管理研究科(HBMS)入学
ビジネスモデルの作成方法を学ぶ
- 2017年／HBMSでの恩師や同期を役員として「ハコジム」を創業
- 2018年／MBA取得
- 2020年／事業拡大を計画中



「自分にしかできないサービスを作りたい」 偶然から踏み出した一歩。

都市部のビルの空き室を利用した24時間利用可能な個室制フィットネスジムで、スマートロックを完備した無人運営。さらに、固定費の削減を利用者に還元した低価格でのサービス提供と、都市と現代人の暮らしにマッチした新規性の高いビジネスとして脚光を浴び、2017年には「ひろしまベンチャー奨励賞銀賞」も受賞した「ハコジム」。代表取締役の永田秀晶氏が「ハコジム」を起業したのは、広島県未来チャレンジ資金を利用し、県立広島大学大学院経営管理研究科(HBMS)へ在学中のことだった。

「自分にしかできないものやサービスを作りたい」と事業を展開するという思いを持つようになったのは、エンジニアとして就職した数年後のこと。その後アメリカ駐在を経て、帰国。漠然と創業への思いを抱きながら働き続けていた永田氏だったが、ある日偶然手にしたのが、



MBAが取得できるHBMSのパンフレットと広島県未来チャレンジ資金のチラシだった。「起業したいと思いつけていたのに、このまま挑戦しなかったらきっと後悔する」と感じ、一念発起。受験と広島県未来チャレンジ資金両方への申込みを決めたという。

ビジネスモデル構築から資金調達まで。 大学院進学が現実にした創業の夢。

「HBMSに行っていなかったら、『創業する』という夢を実現することは難しかったと思います」と永田氏は振り返る。HBMSでは、経営者として必要となる財務・会計の具体的な知識を習得。さらにビジネスモデルを構築する授業では、アメリカ駐在中の経験からハコジムを考案。クラスメイトとチームを組み、投資や売上、利益といった試算など授業を利用し着々と創業に向けての骨組みを揃えていったのだという。また、この際に学んだ資料作りのコツやプレゼンテーションの方法については、その後の資金調達の際に役に立ったそうだ。

しかし、永田氏がHBMSで得た最たるものは、創業を屋台骨から支えてくれた「人」だった。取締役として名前を連ねるHBMSの教授は、資金調達のための人脈など具体的なサポートまでお世話になった「『恩師』としか言いようのない存在」だ。また、役員に名を連ねるのは当時一緒にビジネスモデルをつくったチームメイト。「深夜までよく一緒に作業をしたものです。大変な毎日でしたが、バックグラウンドの違う意識の高い仲間との日々はいつ

も新鮮で面白かった。かけがえのない友人も得ることができました。」

当初はMBA取得後の起業を考えていたものの、実務についての学びに目処がついたことから、在学中2年次に起業。「事業を展開する中では、資金調達や採用、物件探しなど、様々な課題に遭遇します。HBMSで学んだことで、次々と現れる課題を解決するためには、何を勉強しなくてはいけないのかがわかるようになりました。[わからないことの、わかり方がわかるようになる]…単純なようですが、大学院に行かなければ学べなかったことだと思います。」



永田 秀晶氏

「失敗は次に生かす」投資を受けた責任が 事業展開のモチベーションに。

現在は福岡市を含め、8店舗を展開する同社。今後は大阪での展開も視野に入れているというが、コロナ禍や資金調達など、経営者としての悩みはつきない。しかし「背負っているものが重いとは感じていません。自分のやりたいことをやっているだけ」と永田氏。現在大学院進学について悩んでいる人へのアドバイスも「やらないよりは、やったほうがいい。やらないで後悔するよりやって後悔した方がいいし、やろうと思っているなら必ずやった方がいい」とあくまでも前向きだ。「確かに失敗をすることもありますが、それでも、一歩踏み出さなかったら後から後悔してもしきれないし、時間だって取り戻せない。それなら『失敗して次に生かす』という方が、間違いなく良いでしょう?」と力強い笑顔を見せる。

HBMSへの進学、退職しての起業、MBA取得、事業の拡大…とずっと走り続けている永田氏。「正直に言えば、広島県未来チャレンジ資金が無くてもHBMSに行っていたと思います。でも、広島県から公的な資金を受けて、広島県のお金で作られた大学で学んだということの意味を考えると、援助をいただいて終わりにするのはなく、意味のある形にして還元しなくてはならないという責任感を覚えます。起業をする際には多くの投資をいただきましたが、自分がいただいた広島県未来チャレンジ資金もそれと同じこと。投資を受けた身としては、責任を持ってそれを意味のある形にしていかなければなりません。このビジネスで一人でも多くの人を幸福にできるよ、これからも走り続けたいと思います。」

広島県未来チャレンジ資金ご利用希望の方へ

新しい一歩を踏み出すというのは、勇気がいることかもしれません。私自身ですら、最初は悩むこともありましたが、やろうと思っているなら必ずやった方がいいし、大学院に入らないよりは、入ったほうが良いと私は思います。また私の場合、広島県未来チャレンジ資金をいただけたことは、家族に安心してもらおうための良い材料となりました。家庭を持ちながら新たな展開を目指す人にとって、家計に負担をかけず大学院を助走期間として理解してもらえることは、プラスになるのではないかと思います。